

ぽぽろだより

大阪発達支援センターぽぽろ（NPO大阪障害者センター教育部門）



「LD・AD／HD・広汎性発達障害などの気になる子どもたちの理解と発達支援」という副題の付いた表題のパンフレットができました。これは、大阪府福祉基金地域福祉振興助成金対象事業の補助を受けて、この四月に、「ぽぽろ」が発行したものです。今、通

大いに活用して下さい

「困っている子の声を聞いて」

常の学校にもたくさんいるとされるLD・AD／HD・広汎性発達障害の子どもたちの支援について、通常の学級の担任、保護者、元養護学級や通級指導教室の担任、研究者の立場からそれぞれ書かれています。たくさんの方々に利用で理解と共感が深まれば嬉しい。カットは題字写真の鈴木研君が紙芝居に書いた絵を使いました。とてもほのぼのとした絵です。お母さんは大喜喜んで下さいました。パンフレットは無料ですが、送料は一冊一四〇円かかります。関係機関にも置いてありますので問い合わせして下さい。



講座紹介

2006年度

教職員・施設職員のための実践講座

自閉性障害児の

発達と教育

障害特性と発達の視点を踏まえた

教育のあり方

日時：二〇〇六年 六月十一日（日）

「自閉症の理解と支援」

午前十時～十二時三十分

「高機能自閉症・アスペルガー症候群」

午後一時三十分～四時

場所：堺市総合福祉会館

南海高野線「堺東」駅下車徒歩十分

TEL 223-9862

講師：荒木 穂積氏（立命館大学）

受講料：二千円

申し込み：FAX 050-7509-8914

E mail：OSP22337@iifty.com

講師紹介

荒木先生は、自閉症について、その病理と心理面にわたり臨牀的な研究を積み重ねてこられていて、各種の技法・療法についても明るい先生です。先生のお話は、自閉症スペクトラムと位置づけられている子どもたちの発達と療育・教育に、大きな示唆を与えてくださるにちがいありません。

ぜひ参加下さい。

大阪発達支援センターぽぽろ

開所記念・特別講演会

記念講演

講師 白石 正久氏

(大阪電気通信大学教授)

「今日の子どもの育ちと発達支援の

ネットワークづくり」(仮題)

日時：2006年7月2日(日)

場所：大阪市立教育青年センター

参加費：6000円(「ぽぽろを育てる会」の年会費5000円を含みます)

申し込み：TEL 06-4257-8881

FAX 050-7509-8914

E-mail GSP22337@nifty.com

多くの方々の支援で発足した「ぽぽろ」が、少しずつ育ちつつあります。これは、教育基本法の理念を実現することでもあると信じています。その思いを一つにするために、左記の催しを企画しました。たくさんの方々の参加を願っています。

発達支援センターの感想

発達支援センターの感想

- * 生活指導のあり方、目からウロコでした。
- * 自己信頼を勝ち取るための対話の大切さ、本当にそう思います。どのマニュアル本にもそのノウハウについて記されていない。
- * 表面上の問題に振り回されず子どもたちの姿を見抜く目を養える、そんな学びの場をよろしく願います。
- * じっくりと一日の聞き応えのあるお話でした。応用編のみを、また一日の長さで聞きたいと思えます。全障研で学んだ発達の節と、軽度発達障害と関わった発達の節の違いは、認識と表現からみた節だと思つのですが、その説明が欲しかったかなと思います。
- * 小と高の違いはあっても、原則はまったく一緒でほっとしました。違つのは発達課題と世間との距離だけだと改めて思いました。
- * 子どもの実態に合わせ、困っている事の除去をどうするか?とが無駄のある生活の大切さなどが良く分かりました。

* 通常学級生徒と養護学級生徒(教師)とのかかり方についてもヒントがあり、すぐ実行してみたいと思いました。

* 映像などを通して具体的な子ども現象や取り組みを見せていただくとうれしいです。

* 生活が人を育てるといってお話をきいて、たしかにそうだなあと思いました。だからこそ、どのような生活を作っていくのか、どのように周りとかかわりながら、自分自身を生きていくのか、じっくりと対話することが重要だと教えていただきました。

* 実践の中でルールとメリハリのさじ加減が常に悩みの種です。子どもたち同士の信頼を含めいい関係が気づける教師になりたくなあと改めて思いました。

* 肢体不自由の養護学校で働いています。ほとんど重複、また重度の障害をもつ生徒が多いです。重度・重複障害について、またこれからの特別支援教育に向けて、肢体不自由校に何が期待されているのか、など勉強したいです。

* スライドがちょっと見にくかったです。ゆっくり待つ、大切ですね。

第一回 不登校などの子どもたちの
自律・自立を考える学習懇談会

4月22日(土)午後1時30分～4時30分たかつガーデンで学習懇談会を開催しました。講師は「NPO法人石井こどもと文化研究所」の石井守先生で保護者のお父さん、お母さん4名と事務局から7名参加しました。

自己紹介の時に保護者から今かかえている問題や相談がいろいろ出されました。石井先生はそのことと重ね合わせて著書「ひきこもり・青年の出家(たびだち)」にある事例など、先生がかかわってこられている具体的なケースを紹介しながら話をすすめられました。

スウェーデン・フィンランド・デンマーク・ドイツなど、訪問されたヨーロッパの国々の教育を詳しく話されました。小学校3年生までは、個人差があるから一斉教育をせず、自由学習で一人ひとりに応じたとりくみをする。ヨーロッパには引きこもりはいない。神経症で引きこもりになることはないそうです。学校は楽しいところで、楽しくなかつたら学校へ行かなくても良い。そんな子どもが5人で

たら自治体がお金を出してフリースクールを作ることができるのだそうです。

石井先生に質問をしながら保護者から具体的な子どもへの対応のしかたなどの相談がありました。事務局のメンバーからもどんどん意見がだされました。石井先生は元気になっていく道筋は丸ごと受けとめてやること、そこから出発することの大切さを強調されました。不登校の子はいい子で、がんばって神経症になつて不登校になるという経過を経ても、そついつ子にも居場所が必要、ここの居場所で何ができるかをさがすことができる、ここへ来ることに意欲があるよといつてあげることで、来ているだけでかわると確信を持つて話されました。私の育て方が悪かったのかと自分を責める「といつお父さんの言葉に胸が痛みました。

今後、ここで悩みを出し合い、学習しあつて行くことになりました。次回、第2回学習懇談会は5月28日(月)です。

感想

石井先生のお話はとても明快でした。どうすれば不登校が克服できるのか、とつに答え

はわかってもらえるのだと思いました。
 子どもをまるごと受け止める事、今の状況を認め、そこから出発すること、わかっていたつもりでしたが、お話を聞き、ふり返ってみると、わが子をまるごと受け止めきれず、中途半端で、十分気持ちを安心させられてはいなかったと気付きました。まるごと受け止めるという事の意味もわかっていないかも...と思いました。

学習懇談会については、こんな形で、親同士を会わせてくださった事に感謝しています。次々とびつくりするような事が起きて、思い悩む時、「どんな事でもおこると覚悟して。」と言われた青木先生の言葉を思い出しては何とかあきらめずに来れていると思います。それでも、こんなことが続いたらどうなるんだろう...とか、中・高生の大きな事件が起こるたびに、いつかあんな事件をおこすのでは...と、不安でたまらなくなりました。そんな時は、また子供を追いつめたりして、度々、逆戻りをしています。
 子供の事、自分の事、正直に話して、気持ちを楽にできる場になればいい、と思います。
 (岩崎恵美子)

第2回

不登校などの子どもたちの自立・自律を考える

学習・懇談会 (ご案内)

日時: 2006年5月28日(土) 1:30 ~ 4:30

会場: たかつガーデン7階 705号室

(近鉄「上本町」徒歩3分、地下鉄「谷町9丁目」下車5分)

講演: 長岡 千代子先生「私の出会った子どもたち」

呼びかけ人 岩崎智美・岩崎恵美子・青木道忠 連絡先発達支援センター「ばぼろ」

講師 長岡先生紹介

元貝塚養護学校寄宿舎教員

長岡先生は貝塚養護学校の寄宿舎で約四十二年間勤められ、今年の三月に退職されました。この四月から「大阪発達支援センター」ばぼろ」の教育相談員として関わっていただいています。貝塚養護学校は病気療養児が通う寄宿舎のある学校です。近年は軽度発達障害や心身症、神経症などで不登校・登校拒否の子どもたちの入学も増えてきています。寄宿舎はそつした子どもたちの生活の場であり、子どもたちは家庭・家族と一定の距離をおきながら共同生活の中で自らの生活を見直し、立て直し、家庭・地域に帰る力を養っていきます。「一番つらいのは子どもたちです」と言い切る長岡先生が出会ったたくさんの子どものたちの事例をもとに自立・自律について語っていただき学習します。

その後は、自由に感想や悩みを交流しあい、今後のフリースクール教室のとりくみなどについて相談したいと考えています。

